会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	第1回高松市ＭＩＣＥ振興戦略策定懇談会
開催日時	平成28年6月7日（火）14時30分～16時15分
開催場所	高松市役所3階 32会議室
議　題	(1)会長・副会長の選任について (2)高松市ＭＩＣＥ振興戦略（仮称）の策定について (3)その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員（11名）	安部委員、井上委員、角谷委員、鹿庭委員、坂口委員、土居委員、西村委員、三村委員、宮武委員、村山委員、矢田委員
傍聴者	4人　　（定員5人）
担当課及び連絡先	政策課　839-2135

会議の経過及び結果
会議の冒頭、委嘱状を交付し、城下市民政策局長からの挨拶の後、議事に移った。 **(1)会長・副会長の選任について** 高松市ＭＩＣＥ振興戦略策定懇談会設置要綱第４条第２項の規定に基づき、委員の互選により会長が、会長指名により副会長が選任された。 会長　村山　卓　委員・副会長　角谷　寿彦　委員 **(2)会議の公開について** 本懇談会は、原則公開とし、今後の会議において、法人その他の団体に関する情報等、非公開となるような事項の審議が想定される場合には、非公開とすることとした。

(3)高松市ＭＩＣＥ振興戦略（仮称）の策定について

①本市のＭＩＣＥ振興をめぐる周辺環境

オブザーバーである香川県から、本年３月策定の『香川県ＭＩＣＥ誘致推進方策』について説明いただき、各委員に発言を求めたが特に意見はなかった。

②高松市ＭＩＣＥ振興戦略（仮称）の考え方について

事務局から、高松市ＭＩＣＥ振興戦略（仮称）の考え方について、資料を基に説明し、委員から意見や質問等を求めた。

（オブザーバー）

・ヨーロッパとか東南アジアとか全部に当てはまるわけではないのだろうが、日本との違いということで、ＭＩＣＥに欠かせないのは、スポーツと音楽。

・マイアミとか、いろんなところがアリーナを建設して、ＭＩＣＥ振興をやるけども、コンテンツが必要で、ホームゲームがあるバスケットとか、そういうものが絶対的に不可欠。

・もう一つ、ゴルフ場がないＭＩＣＥシティはない。

・今後、ＭＩＣＥを誘致するためにいろんなパンフレットを作ると思うが、音楽、スポーツ、エンターテイメント、このあたりは論点にいれていただいて。抜本的には、アリーナとかファイブアローズへの出資とか、別の議論が必要なのかもしれない。

・ユニークベニューは非常に大事で、私も披雲閣を借りて会議をしたことがあるが、非常に印象に残る会議だった。

・ＭＩＣＥの視点から見た“高松らしさ”について

（会長）

・地理的な環境としてのウォーターフロントが、高松の魅力の一つ。それをどういかすか。屋島の山上拠点施設もウォーターフロントに入っている。

（委員）

・私は瀬戸内海の美しさに魅力を感じて移住してきた。

・離島で会議を行うのは非常に難しいが、地球環境汚染とかの会議であれば、瀬戸内海という舞台、都市部と里海がある高松市は非常にポイントが高い。ぜひ離島で会議が行われればと思う。

・直島町にも素晴らしい施設があって、高松市以外が所有している周辺施設との連携も検討するといいと思う。男木島、女木島に限られてしまうと選択肢が難しい。

・ＭＩＣＥ開催のたびに疑問に思うことがあって、一般市民からすると、国際会議とかがあっても、ニュースで流れるだけで、具体的に何が行われたのか、何が議論されたのかが分からない。
・ＭＩＣＥ参加者のために、税金を投入して、高松市にとって何になったのか、よくわからない。
・市も会議を企画して運営するだけで、手いっぱいになっていて、情報発信するところまで、いかしきれていないのかなと。イベントが終わった後にでもできれば。

（会長）
・離島については、瀬戸・高松広域中枢都市圏の各市町（小豆島、直島等）との連携もありうるということで、幅広く議論できる。

（委員）
・『香川県ＭＩＣＥ誘致推進方策』では、ＭＩＣＥに取り組む意義として、「高い経済効果」「ビジネス機会やイノベーションの創出」「国・都市の競争力、ブランド力向上」の順番で書いている。観光庁のホームページだと順番が違っていて、一番に「ビジネス・イノベーションの機会の創出」がきている。
・「高い経済効果」というのを一番にした場合に、よそから人がたくさん来て、いっぱいお金を落としてくれて、それで「よかった。よかった」でおしまいというところがあって、そういうところがＭＩＣＥの効果だとしてしまうと、なかなか“高松らしさ”は出ない。人を呼び込んできて、お金を落としてもらうというのは、どこの国、どこの都市でもある。
・“高松らしさ”を出していくポイントとしては、ビジネス機会とかイノベーションの創出。高松にはいわゆるニッチトップの企業がある。
・ＭＩＣＥを誘致してきたときに、世界のトップレベルの頭脳が来るわけだから、そういう人たちと地元の高い技術力をめぐり合わせる。それをきっかけに地元の企業が利益を出していけるような環境が続くと、なにもＭＩＣＥ誘致の補助金を出さなくても、それが今後のＭＩＣＥ誘致をやっていく動機につながっていくような気がする。
・具体的な方策を考えていくときに、いまの市の素案では、そういう視点が欠けているという気がした。
・先ほど意見の出たゴルフ場なんかは、実はビジネスチャンスを創出するツールだと思う。

（委員）
・“高松らしさ”というのは、海の気配がある中で、音楽、スポーツ、アートを情報ではなく感じられるかということ。

（委員）
・この懇談会自体、いろんな団体の代表の方が参加されている。ＭＩＣＥを推進するにしても、行政だけでは厳しいと思うので、それぞれ団体の強みをいかして、「高松がＭＩＣＥを推進しています」とか、「２９年に観光サミットがあります」とかいうのを一般の方に広めていくことから、初めてみるのもいいのではないか。

（委員）
・Ｗｉ－Ｆｉの設備環境が増えていて、市も県も非常に力を入れ始めていると思う一方で、１回３０分、１日８回の制限とか、ＡＤＳＬよりも遅いのではないかと思うときもある。
・そもそも利用するのに、いろいろ登録しないといけない作業が、外国人にとって使いやすいのかという検討が、もう少し必要なのかなと考えている。

（会長）
・施設予約などの情報の共有化や、ワンストップで対応する窓口などの体制も強化する必要がある。

（委員）
・将来的には会議場の空き状況も一つの画面で、ある程度の施設を見られるようにしないと。
・誘致に行って思うのは、主催者がいかに「ここに決めた！」と思うかというのが、最後の決め手になっていて、「いろいろいいものがあるけど、不便だよね」というので、避けられる地域もあるような気がする。そういう意味では高松市は負けていないとは思うけども、もっともっと勝っていくためには、主催者に楽に選定していただける環境が必要。
・現状では、最終的には紙で申し込むことになっていたりして。スマートフォンでも申し込んだりできるようになれば本当はいいのではないかなという感じがする。それも英語対応ができていればいいのではないかと。一例ですけども、玉藻公園は英語のホームページがない。栗林公園はあるが。
・そのようなことも含めて、国際会議も視野にやっていくのであれば、グローバル化、ＷＥＢ化、Ｗｉ－Ｆｉ等の環境向上が必要というのを、主催者誘致をしていて感じている。

（委員）
・海外向けには、多言語化より非言語化することが必要だと感じている。外国の全部の言葉に対応するのは不可能。
・高松駅を降りて、港の場所とか中心市街地がどっちにあるのかを見つけるのは、感覚的には結構難しいし、拠点施設なかは簡単なピクトグラムで表記する必要がある。

（会長）
・会議施設などでは表示（サイン）はどうなっていますか。

（委員）
・シンボルタワー自体が非常に複雑な建物になっている。何年か前に建物内でのサインを実施したところもあるが、まだまだ不十分なところもある。今後さらに改善していかなければならない。御意見を参考にして進めていきたい。

・香川県や関係機関、民間企業のとの関係や役割分担

（委員）
・香川県というと、焦点がぼけてしまう。外から目線で行くと、香川県でやりたいというより、高松市でＭＩＣＥをやりたいという視点が一般的。それを香川県の組織でやるのは難しいと思うので、市を突出してＰＲしていくことが、結果的に波及効果が広いエリアに広がっていく。
・関係機関、民間事業者との関係でいうと、これだけ人口が減る中で、交流人口が拡大して、いろんな商売に繋がっていけば、狭い意味での観光事業者だけに留まらず、宿泊だとか物販だとか、そういう分野にどんどん広がっていくという相乗効果を生み出すということを念頭に、いろんな施策、戦略、戦術が提起できれば理想。

（委員）
・既存の“高松らしさ”だけではなくて、将来的にあるべき姿、ＭＩＣＥ振興を図るためのまちづくりという観点になったときの県とか関係機関とかとの役割分担について考える必要がある。
・高松市の中には、県や国が管轄していたり、公共的な施設や道路であったり、いろいろなインフラがある。それぞれの観点で、それぞれの機関が自分たちの最適化を図ったときに、それを積み上げると、全体の不整合を招いてしまうという結果になる場合がある。
・ＭＩＣＥ振興に限っていうと、やってきたお客様は基礎自治体レベルの範囲でＭＩＣＥを開こうとする。
・これからまちづくりをやっていくときに、例えば、都市計画を変えていくとか、新たに何かを整備するとかいった場合に、基礎自治体のＭＩＣＥを開催できる範囲を考えて、そこの魅力を高めるために、もう少し広域的な機関の方々が、狭い方の範囲の機関に耳を傾けてもらえるようなそういう仕組みができればいいのかなと。
・高松市でＭＩＣＥ振興をやることが、どこかで県内全体でいい循環を生み出すような、そういう結果、そういう波及効果を作っていかないと。

（会長）
・それを基礎自治体の戦略としていくのか。県のＭＩＣＥ誘致の体制で協議していくものかもしれない。全体最適化の中での、県と市との双方のメリットがいかされる形を探る必要がある。

（委員）
・国際なのか国内なのか、議論を絞る必要がある。また、国際会議をずっとやるための議論なのか。国内の競合する都市に打ち勝つための議論なのか。“高松らしさ”を出すのも、国際向けに出すのか、国内向けに出すのか。

（会長）
・圧倒的に国内が主流というのが現状だが、いま過渡期にある。国際会議が継続的に開催されていて、この実績をいかせないかという方向に行くのか、あるいは国内をより充実するのか。
・国際か国内かという以外にも、ＭＩＣＥの全面戦略を考えていくのは、広すぎるという議論もあるかもしれない。インセンティブ旅行に絞りましょうとかもあるかもしれない。

（委員）
・高松観光コンベンション・ビューローとしては、ある程度分野を特化して、ＭＩＣＥ誘致の業務をしている。具体的には、コンベンションに特化して誘致をやっている。国際会議も学会も全国大会も全部Ｃ（コンベンション）になっている。ＪＲ高松駅前のサンポート地区にホールがあるし、玉藻公園の近くにレグザムホールもある。駅前地区を活用して、１，５００名とか２，０００名とかの国際会議、国内会議、全国大会、全国学会をメインに誘致をやっている。
・その中で、件数がどうかというと、国際会議はそんなに多くない。一例として、昨年度に補助金を支出している件数では、全体が１１７件、国際会議は７件、国内大会２７件、国内学会が１５件、スポーツ大会２２件、企業コンベンション３件、教育旅行３件で、件数で一番多いのは、合宿の４０件。そういう中では、国際会議の件数は少ない。とはいえ、１、２件という年もあるので、昨年度は多い方。
・コンベンション誘致は３，４年前、早いものであれば５年くらい前から取り組んでいる。
・国内会議の主催者が何年に１回か、国際会議を併催するときに、パワーをかけてとりに行っているのが現状。そういう意味では、誘致先は国内の学会、大会の事務局ということになる。

（オブザーバー）
・関係者としては四国ツーリズム創造機構も考えられる。国際協力機構（ＪＩＣＡ）や日本貿易振興機構（ＪＥＴＲＯ）などは外国人のビジネスや研修生を連れてきている。所在地は高松市にあるし、検討してみてもいいかもしれない。
・“高松ならでは”ということで、その地域でどういう出し物を頼めるか（獅子舞、ブラスバンド、カマタマーレ讃岐の選手によるパフォーマンス、有名なピアニストの演奏など）を知っておく必要もある。

(5)その他について
（事務局）
　第2回高松市ＭＩＣＥ振興戦略策定懇談会は、7月に開催する予定だが、調査分析等の進捗により、日程が変更になることを説明。

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

（閉会）